みなみそうま市民とNPOによる災害支援チームこのゆびとまれ活動報告

災害時の役割

災害時中間支援センターに求められたこと

一般社団法人南相馬パブリックトラスト
代表理事　原田　淳子

2011年3月11日
東日本大震災

14：46地震発生

市内：震度6弱　大津波警報発令
死者：588人

行方不明者：87人

負傷者：59人

	全世帯数	被害世帯数	全壊	大規模半壊	半壊	床下浸水
小高区	3,771世帯	463世帯	318世帯	31世帯	65世帯	49世帯
鹿島区	3,460世帯	495世帯	411世帯	13世帯	41世帯	30世帯
原町区	16,667世帯	551世帯	435世帯	36世帯	53世帯	27世帯

2022年３月16日　5度目災害「福島県沖地震」

- 福島県沖地震
  2022年3月16日23時36分
  地震：マグニチュード7.6震度6強

	全世帯数	被害世帯数	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	被災率
小高区	2,639世帯	226世帯	1世帯	0世帯	0世帯	0世帯	9世帯	1,558世帯	8.5%
鹿島区	3,696世帯	1,704世帯	9世帯	5世帯	13世帯	87世帯	230世帯	1,360世帯	46.1%
原町区	18,027世帯	1,608世帯	0世帯	0世帯	1世帯	7世帯	41世帯	217世帯	8.9%

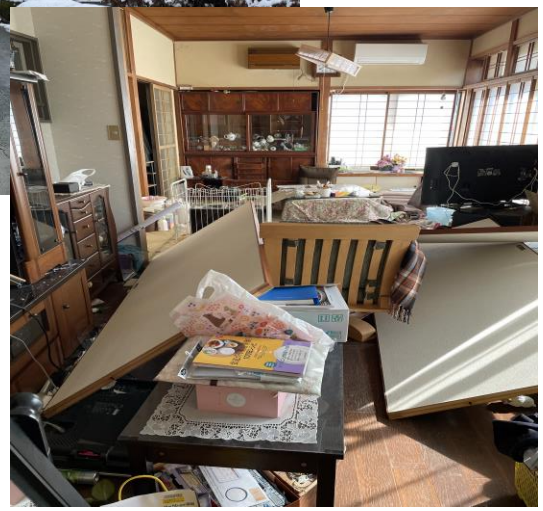
まちの状況

相馬市にて3月18
日給水活動

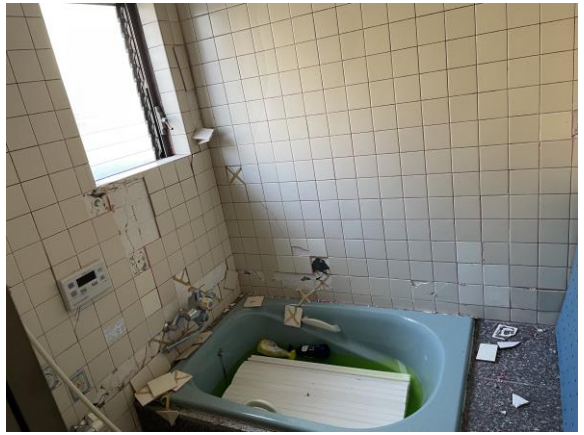
独居老人の孤立

何度も修理して生
きてきた！

屋根や壁の無い暮らし



3月17日～３月27日
入浴施設の解放　利用者：7,140人



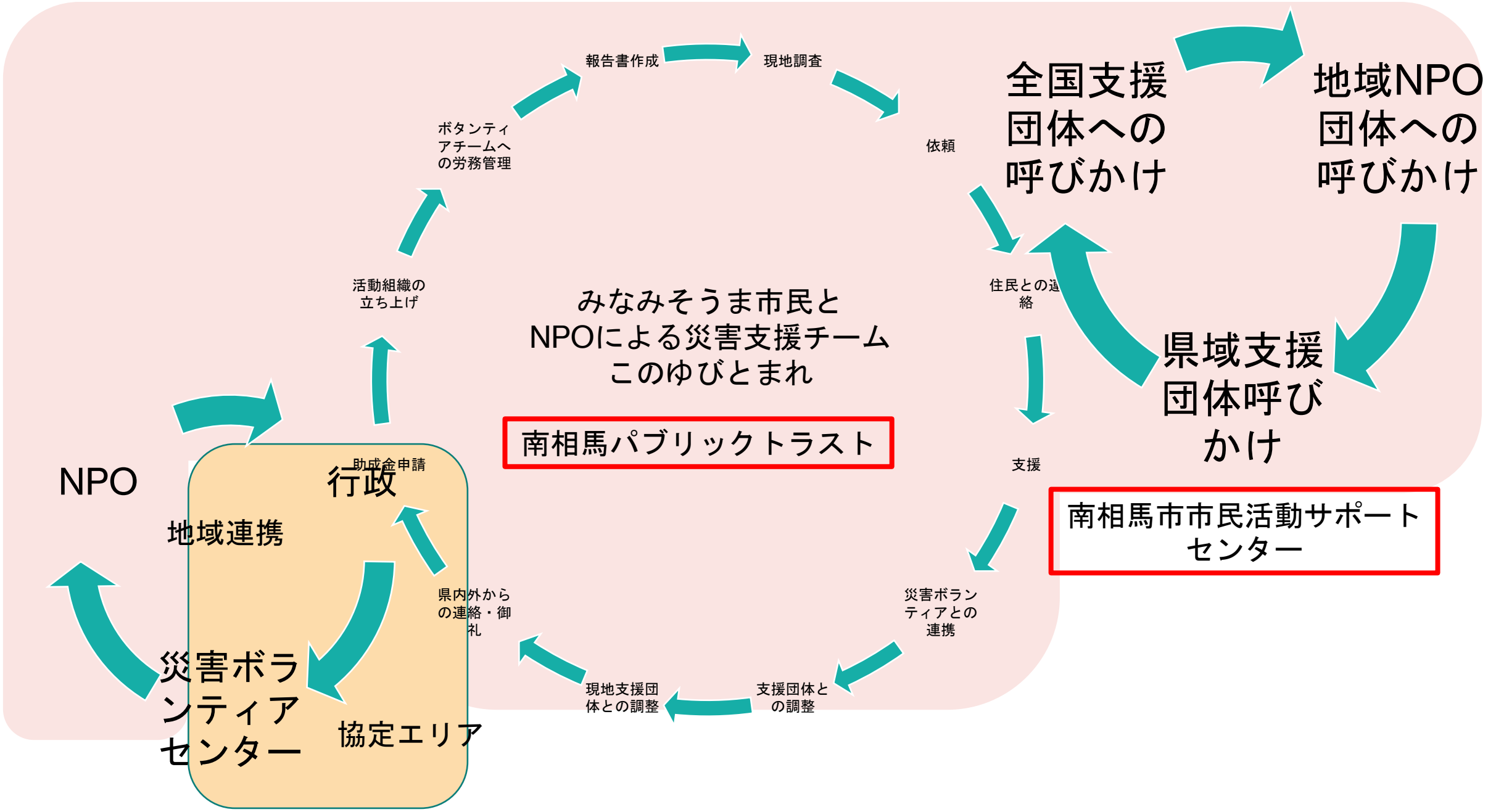
このゆびとまれ設立

- 令和4年3月16日に発生した福島県沖地震の被害は、11年前の東日本大震災と比べると、地震の揺れが大きかったせいか屋根被害が多く、外観からの被害が見えにくいことが特徴であった。避難所の設置件数も少なく、避難所に行かない住民も多かったこともあり、地震被害が過酷な状況であるにも報道がされない状況が続いた。何度も訪れる災害に住民は肩を落とした。東日本大震災においては原発事故の賠償外の地域であるため、災害復興の支援には対象地区外となったため、被害だけが蓄積してきた。被害の特性から技術を持ったNPOチームと災害ボランティアセンターや行政との連携を図りながら、得意分野を重ね合わせる活動を行うため
- このゆびとまれを立ち上げた！

ゆびとまで行ったこと

期間	支援内容	
4月7日から 5月21日	入浴支援	315枚
4月９日から 5月11日	技術系アライアンスチーム とのコーディネート	147団体 ボランティア　延べ1,500人
4月7日	被災者生活再建支援	320件
7月から2月	サロン活動支援	251人
5月から現在	フェイスブックの作成	
7月	ホームページの作成	
4月	訪問活動	1,714件

見えてきた課題（急性期）


みなみそうま市民と
NPOによる災害支援チーム
このゆびとまれ
南相馬パブリックトラスト
南相馬市市民活動サポートセンター
全国支援団体への呼びかけ
地域NPO団体への呼びかけ
県域支援団体呼びかけ
依頼
住民との連絡
支援
災害ボランティアとの連携
支援団体との調整
現地支援団体との調整
県内外からの連絡・御礼
現地調査
報告書作成
ボタンティアチームへの労務管理
活動組織の立ち上げ
助成金申請
行政
NPO
地域連携
災害ボランティアセンター
協定エリア

せっかく支援に来てくれた団体を怪しい団体にしないために必要なこと

- 三者連携を迅速に開催する
- NPO団体（技術系アライアンスチーム）への、活動証明書の発行（行政発行なら、尚良）
- 被災地に技術系チームのためのベース地の設置
- 安全なボランティアチームなのかの判断

見えてきた課題（慢性期）

・急性期にSOSをキャッチしないことで生活困窮世帯が急速に増加

↓

・災害時の状況が生活になる

（東日本大震災で対応出来なかったことが生活へと順応してしまう、何度も災害が訪れることで過酷な状況が生活へと慣れる。）

↓

・命の危険に気がつかない

災害は備えていても
混乱する

楽しく備え

災害に直面した時に柔軟な対応ができることが重要になる

～ご清聴ありがとうございました～